

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：2022年3月30日

事業所名 特定非営利活動法人くまっこクラブふくい

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8	1		製作する場所を1か所にまとめている。（作業室）	居心地の良い場所を子どもたち一人一人が今後も見つけていけるように環境を整えていく。
	2	職員の配置数は適切である	8	1		AとBの子どもの人数によって、職員を動かしている。外出の時は担当を決めて配置している。障害の重い子にはつけている。業務拡大に向けて職員採用を積極的に行っている。	4月より新しい職員を迎える。一方で新1年生が3名入る。A,Bチームが協力し合いながら各チームで動けるように配置していく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4	5			新館と違って旧館は鍵など問題が多い。段差も多く設備的にも古いのでバリアフリーとは言い難い。知的障害の利用者には問題は無いが、車いす利用者や歩行困難者には、課題がある。検討していく。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	3	6		月に職員会議や各事業においても定期的にミーティングを行っている。	年度初めに建てた個人目標を各自が覚えていないこともあり、各事業で振り返ることが必要であった。次年度はその項目をミーティングに入れる。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	9				年度末に確認しているが、半期に一度振りかえる。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	9			HPやFBの更新をお願いしたい。	HPで公開していることを保護者に機関紙等でお知らせしていく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	8		しているのが分からない。	外部評価を行っていないが、理事会のメンバーは外部の方が多いので、意見をお聞きして取り入れていく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	9			研修希望があれば業務として研修に参加できる。年1回の実践報告会に向けて取り組んでいる。	職員全体がある程度平等に研修を受ける機会を持ってほしいので、調整していきたい。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	9			心理士を配属し、子どもの思いを聞き取る機会を設けている。	なかなか子どもたちが主体的にしたいことを言えないことと、情報量が多いと選択できないので適切なニーズアンケートを作成する。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	2	1	適宜、利用者や保護者の聞き取りをしている。	手帳の等級以外知るすべがない。田中ピネーやWISCなどの情報が入らない。一例学校に依頼して検査結果を聞いた例があり役立った。検査できる職員配置は難しいので、行政の方でこの動きがスムーズになるように動いてほしい。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	1		A,Bそれぞれのサブチームが考えている。	ABチーム案を元にチームが作成しているがチーム以外の職員にも意見を聞いて反映させていきたい。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	1		長期休暇は外出活動を多く取り入れている。季節に合わせた活動や調理、畑で収穫したものを使って活動を広げている。あえて固定化しているものもある（みどり図書館）	職員から取り入れたい活動を聞き取り、月スケジュールに落とし込み実践している。実践後は、ミーティングで振り返り、継続すると良いものについては確認している。

適切な支援の提供	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	9				次年度より中高生の土曜日稼働を実施する。自分で決める、社会体験を積み、大人の仲間たちと関わることを学んでいく。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	8	1			本事業所はこれまで「仲間とともに」育つことを大事にしてきた。仲間の力で行動できることを環境の整備と捉え、強度行動障害の支援を行っているが、個別化の視点も取り入れて行きたい。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	9					毎日定時に集まり、確認している。前日にあったことを話題にしている。継続していくが、話題を提供しやすい雰囲気づくりや虐待防止、人権擁護についても触れていく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	3	3	緊急の時は適宜行う。気づきや異変、トラブルについては適宜共有している。その日にはできなくても次の日には共有している。送迎がある為難しい。		送迎で送れるため支援後の打ち合わせはないが、ヒアリハットや伝達などは残っている職員で行っている。必要なことはすぐに報告することを徹底していきたい。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8	1				個別支援の目標を転記して、それに合わせた記録を取っている。目標に掲げたことを実践する力がまだ乏しいので、工夫したい。
	18	定期的にもモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	9				計画は全員に回覧し目を通していている。ミーティング時に様子を共有している。	半期に一度面談を行い、ニーズを聞き取っている。計画に具体性を持たせることを促しているが、実践に繋がっていく為に強化していきたい。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	4	5				ガイドラインについて職員間で共有できていない。印刷物を回覧し徹底する。毎年振り返りの時に提示していく。
関係機関や保護	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8	1				児発管以外にサブチーフにも呼び掛けして参加してもらっているが、さらに強化していく。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	8	1			学校によっては、下校時間のお便りをもらったり、休み明けの時間の確認は保護者にメールで聞いたりしている。	プライバシー保護の観点から学校側が情報を共有してくれないことがある。適宜保護者等を介して情報を得ているが、保護者も把握していないことがある。保護者支援とと同時に学校への働きかけを福祉全体で行う必要がある。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	2	5	2	いない		身体障がいの利用者の受け入れは軽度であればできるが、強度行動障害の仲間との共存は難しい。受け入れるのであれば、環境整備と看護師増員、職員の専門性が必要である。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6	3			必要に応じて新入生の就学前の園を訪れ聞き取りを行っている。	新1年生に関しては出身園への見学を行っている。継続していく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	7	2				昨年度は高3生がいたので、移行支援会議に参加させて頂いた。今年度はいないが来年度卒業生については、数回ケース会議に参加している。丁寧に関わっていく。本事業所は日中一時支援で休日活動を行っており、高校生から利用が出来ること、次年度より土曜日稼働するので、その強みを生かしていく。

者との連携	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7	1	1	何名かの利用者に関わって頂いている。事例検討をしたり、ケース会議をしたり、声を掛け合っている。研修にも参加している。	軽度発達障害の利用者について、本事業所以外の社会の中での居場所をこれからも模索して、地域の中で健常の仲間と過ごせるように保護者への啓発、事業所での取り組みを行う。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	4	2	1	野菜の販売で公民館、こども園、トマト児童館に出かけている。コロナ禍の為なかなかできなかった他事業所（あ・りと）との交流も行えた。	トマト児童館より交流のお話を頂いたが、コロナが急増し断念した。ご時世チャンスがあればすぐに実行することが大事なので、フットワークを軽くしていきたい。上記の軽度発達の子にとっても必要である
	27	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加している	3	5		上の人がしていると思う	こども部会にリモートで参加した。地域の課題と本事業所の課題が合わないと感じるが、視野を広く持って学んでいく。職員への共有を強化していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9			お迎えの時や連絡帳などで、今日あったことや大事な情報を共有している。	機関紙や通信で課題を発信しているが、最近の保護者は学習のニーズが高い。活動での成長を伝えることで、理解を深めていっていただく。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	5	2	よくわからない。保護者の状況に合わせて	保護者同士で困り感を解決できる機会(座談会)をもった。満足していただいたことから機会の継続をしていく。いろいろな保護者がいることを職員間で共有する。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9				見学や体験時に、くまっこの大事にしてきたことをお伝えして理解をしていただく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8	1		面談や送迎時に応じている。	年代によって悩みが違うので、対応が難しいが、若い世代の職員が対応できるように実践を踏ませていく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	9			保護者座談会はよかったという意見が多かったように思う。	コロナ禍で保護者に参加していただくことが難しいが、親の会の活動をしていく。新しい保護者の方に座談会は参加していただいたので呼びかけで継続していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	9				苦情は児発管が対応することになっている。事実と異なる苦情については、職員間で話し合い適切に対応していく。事故報告についても即日対応し、保護者の対応に添えていく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9			学童通信を毎月出している。夏休みの様子を個人ごとに初めて出した。	次年度土曜日の運営について、ニーズや目的が異なる。違う形での発信を検討していく。
	35	個人情報に十分注意している	9				入所時のアセスメントで了解を得ても重ねて都度確認をしていく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8	1		一斉メールやグループメールを活用している。	メールが基本だが、メールを見ない保護者が数名いて、その方には電話等で対応する。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	9			地域交流会、やきいも会を行った。	コロナ禍で従来の収穫祭など地域に根付く活動はできなかったが、地域交流会など規模を小さくして行った。顔見知りの地域の方に来ていただいた。高齢化による交流のしづらさがある。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7	2		職員は演習を通して緊急時の動きをイメージする機会を定期的に得ている。	保護者にマニュアルを渡していないが、玄関先に貼りだしてある。古いので年度内で、作り直す。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9			職員は演習を通して緊急時の動きをイメージする機会を定期的に得ている。 夏に子どもたちと避難訓練をした。	水害、火災、失踪などの訓練を行った。職員間の共有は進んだ。保護者への周知は機関紙等で行っているが、口頭でもお知らせしていく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8	1			虐待防止研修を行った。年度末に虐待防止・人権擁護研修も受けた。次年度に向けて虐待防止委員会を立ち上げていく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6	2	1	拘束する子はいない 食事の時に暴れる子については特別な椅子を用意するなど拘束にならないように工夫している。 なるべく拘束感がなくなるように、チャイルドシートも座面だけにするなど様子を見て変えている。	1名食事を拒絶する利用者がいる。学校や家庭の状況をお聞きしている。保護者面談で報告しているが、同意書や拘束の記録などに取り組んでいく。また、代替手段について難しいが、模索していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	4	1	いない	該当者がいないが、アセスメント表に記入していただくようにしている。該当者が出てきた場合は看護師と連携して取り組んでいく。
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8	1			送迎時のヒヤリハットが多かった。失踪も起きた。原因についてその都度共有してきた。また職員配置も検討した。虐待防止委員会設置に伴い、さらに事業所内での位置づけを行っていく。	